

妙高市立小学校の教育課程の特徴について

～全市共通の活動と中学校区ごとの取組でたくましい子どもを育てる～

1 中1ギャップの解消に向けて

(1) 中学校区で積極的に小・中学校間の連携に努めている

- ・新井中学校区では、今年度「心プロジェクト」の指定を受け、小・中学校の教師が互いの授業を見合うとともに、その状況を踏まえた授業改善について協議し、各自が取り組んでいる。
- ・妙高中学校区では、小学校の児童と中学校の生徒が縦割り班を編成し、遠足を実施した。これを中学生のリーダーシップの発揮の場として、小学生のフォロワーシップを学ぶ場として教育課程に位置付けている。

(2) 全市内の小学校の6年生が1週間の集団生活をする「フレンドスクール」を教育課程に位置付けている

- ・妙高青少年自然の家を会場に、豊かな妙高の自然の中でたくましさや人間関係づくりの力の育成を図る「フレンドスクール」を実施している。
- ・様々な小学校の子どもたちによって編成された班ごとに、野外活動を協力して行う等の様々な体験をとおしてたくましさや人間関係づくりの力の育成を図っている。
- ・市内の小学校の大部分が小規模校であるため、学校を離れての集団生活は、子どもたちに「たくましさ」や「社会的なスキル」を身につけるよい機会となっている。

2 地域の特徴を生かした教育課程の編成に努めている

(1) 「米こめサミット」の開催により、地域の特徴や地域の人々の願いを実感する機会としている

- ・地域の産業である「米作り」体験を、市内の5年生の共通体験として教育課程に位置付けている。
- ・米作りの主な過程や体験をとおして感じたことや分かったことを発表する場として「米こめサミット」を毎年11月に開催している。

(2) 市内の学校であっても、児童数の違いや立地環境（街中・農村部過疎地・農村部新興住宅地等）がかなり違う。そのため市の共通プランはなじまず、各学校が地域の実情にあった教育課程を編成・実施している。